特集② 『リサイクル都市・狭山』を宣言

自然と調和したリサイクル型社会の実現に向け

市では11月2日(土)、『リサイクル都市・狭山』を宣言し、『ごみの減量化』、『資源の再利用』、『自然環境の保全』など、自然と調和したリサイクル社会の構築に向けスタートしました。そのためには、これまでの暮らしを見直し、『個人』、『事業者』、『行政』それぞれが、普段の生活や業務のなかで『ごみの減量化』、『資源の再利用』、『自然環境の保全』に努力していくことが必要です。私たちの家庭や職場などから出るごみを資源として生かすことで『ごみ減量』、『リサイクル』が可能となります。私たちの生活のなかの小さな一歩が、将来の世界規模での大きな成果につながるのではないでしょうか。身近なところから、ごみを資源として利用し、『ごみ減量』、『リサイクル』に取り組んでいきましょう。

デンマーク・オールボー大学
Ｊハンセン氏

11月2日に『リサイクル都市・狭山』宣言記念式典を開催

市では11月2日(土)、市民会館を会場にリサイクル都市・狭山宣言記念式典を開催、『リサイクル都市』を宣言し、自然と調和したリサイクル型社会の実現に向けスタートを切りました。当日は、式典のなかで、集団回収実施団体、リサイクル作品、地球にやさしいノートなどの表彰やデンマークのオールボー大学・Ｊハンセン氏の記念講演『ヨーロッパにおけるリサイクル事業について』なども行われました。

各部門最優秀賞受賞者

◆ポスター
渡辺尊子さん(下広瀬)

◆リサイクル作品
西谷千花さん(広瀬小5年)

◆シンボルマーク
武内哲朗さん(入間川)

SAYAMAの「S」とRECYCLEの「R」を両の手にし、資源(円形)を大事にしている形をつくり、リサイクルの輪を加えました

◆標語
木下秀雄さん(北入曽)

この地球、資源は有限、未来は無限

リサイクル都市・狭山

私たちは、豊かさを追求するあまり、地球の恵みへの感謝を忘れ、大量生産、大量消費、大量廃棄の暮らしを続けてきました。
このままでは、資源はやがて底をついてしまいます。
子供たちの歓声や、小鳥のさえずり、そして、私たちの住む武蔵野の光と風が消えてしまわないうちに、ちょっと立ち止まり、これまでの暮らしを見直し、限りある地球の資源と自然を、つぎの世代に伝えていくことを考えましょう。
それはものを生かして使うことからはじまります。
これまでの使い捨ての暮らしをやめ、「一人ひとりが、足元から」を合言葉に、リサイクルを実践しつつ、自然とのふれあいを大切にする感性豊かなライフスタイルを築いていくことを、ここに誓います。

宣　言

緑と健康で豊かな文化都市・狭山をつぎの世代に引き継ぐため、私たちは、限りある地球資源を大切にしつつ、自然と調和したリサイクル型社会の実現をめざします。
平成八年十一月二日

●標語〈最優秀賞〉

使えるぞ　捨てるな資源に限りあり

地球にやさしいノート『森のキャンバス』表紙絵表彰

優秀賞

濱野俊大くん(御狩場小2年)
小橋美加さん(東中3年)
斉藤千里さん(広瀬小2年)
小沼遼太郎くん(広瀬小4年)
大野一樹くん(入間野小3年)
斉藤実紗さん(入間川東小5年)
白倉美希さん(瑞兼中2年)
入子はるかさん(奥富小6年)

狭山市集団回収実施団体表彰

◆つつじ野住宅管理組合
◆西武狭山台ハイツ自治会
◆自然を守る狭山リサイクルの会
◆新狭山ハイツ子供会
◆狭山台1丁目こども会育成会
◆狭山市立奥富小学校ＰＴＡ

地球にやさしいノートと
リサイクル作品・お花の小人のでんき

●最優秀賞　土淵　昭さん(青柳)

提言　私の家のリサイクル

私の家は三人家族で、リサイクルだけでなく、エネルギーの無駄遣いも極力避けて、出来るだけ環境に負荷を掛けない生活を心掛けていますが、今回はリサイクルについて報告します。

生ごみはすべて家庭菜園に入れ、肥料として利用し、ごみとして出しません。

次に紙類、すなわち新聞、雑誌、ダンボール、牛乳パック、レシートの類まで、古紙回収に出しています。

ただ、紙は回収に回しただけでは、リサイクルとして回転しませんから、極力再生紙を使用した製品を使っています。例えば、トイレットペーパーは、新聞古紙百パーセントの再生紙を利用し、メモ用紙は広告の裏面を使用、封筒は気を使わなくて良い懇意の人には、一度使ったものを使用しています。また、ティッシュペーパーは鼻をかむとき以外は使いません。食事の時にテーブルの上にこぼした汁などは、台布巾で拭いています。

ペットボトルは原則として使わないように心掛け、醤油は一升瓶を、お酒やビールも瓶のものを買い、再使用します。缶入りは買いません。なお、缶入りやペットボトル入りのジュースも買いません。

野菜は大抵の場合、家庭菜園で間に合いますので、めったに買いませんが、たまに買うときは、パック付きのものは買いません。

魚や肉は残念ながらパック入りの物が多いのですが、発泡スチロールトレイはスーパーの回収箱に戻します。

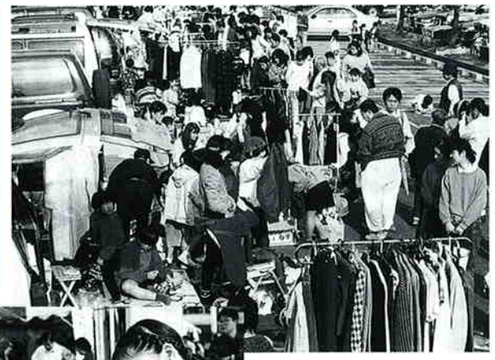
最近、お寿司や魚のトレイに、絵が着いているものや、トレイ表面にエンビシートが張り付けてあるものが出回り、リサイクルが出来ないばかりか、白いトレイに比べ、三倍も四倍も高いものを買わされているのは、納得が行きません。リサイクル都市宣言をするに当たり、是非止めるように行政指導してほしいものです。それが難しいのならば、同じ種類の商品について、白いトレイ入りのものと、そうでないものとを両方置くようにし、消費者の選択する権利を奪わないようにして欲しいものです。

そんな事で、私の家のごみ排出量は一か月で一袋程度です。

私の自転車は二十年以上修理を繰り返して使っていましたが、最近どうにもならなくて、とうとう新しいものを買い換えました。本当はリサイクル品で良かったのですが、狭山市では、自転車リサイクルのシステムができてないので、残念ながらその時は手に入りませんでした。また、冷蔵庫や家具なども、清掃センターに出された物は、リサイクルするシステムになっていません。よその市では粗大ごみから良さそうなものを選別して、リサイクルしているところもありますので、是非そうして欲しいと思います。

11月10日・リサイクル都市宣言を記念し――

「生き活きフェスティバル」を開催



11月10日(日)、市役所駐車場、エントランスホールでリサイクル都市・狭山の宣言を記念した、『生き活きフェスティバル』が開催されました。ごみ減量とリサイクルを合言葉に、リサイクルマーケットに60店舗が参加し、古着や食器などを格安で販売したほか、牛乳パックを利用した椅子やカメラ作りに子供たちが挑戦した『リサイクルコーナー』、傘の修繕などを行った『修繕コーナー』など、参加したかたがたにとって「捨てればごみ、使えば資源」を改めて実感した一日となりました。

問い合わせ
清掃総務課へ内線６４５